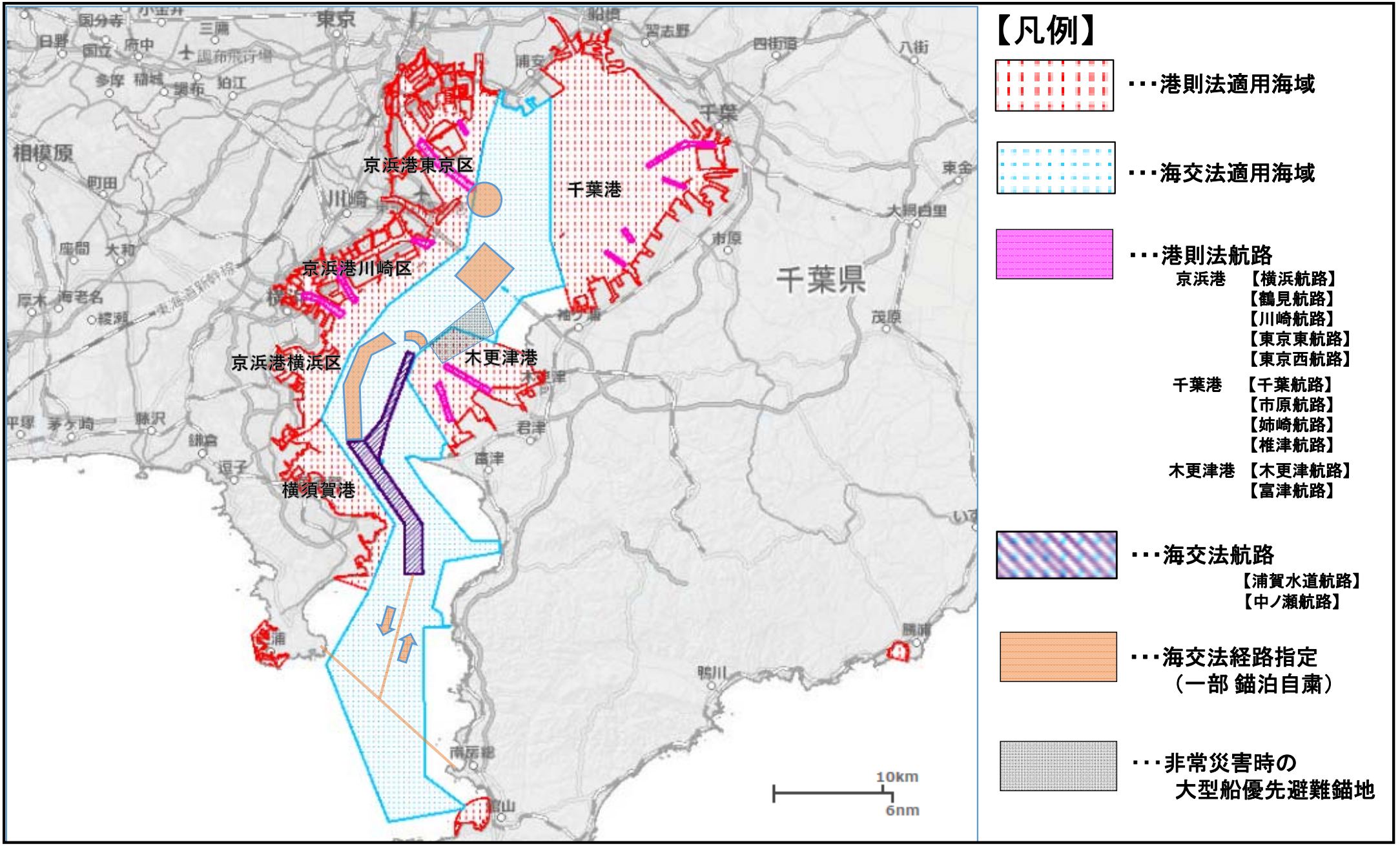
参考資料１

東京湾の基礎情報

JCG
海上保安庁
海
東
防
Tokyo Wan Association For Marine Safety

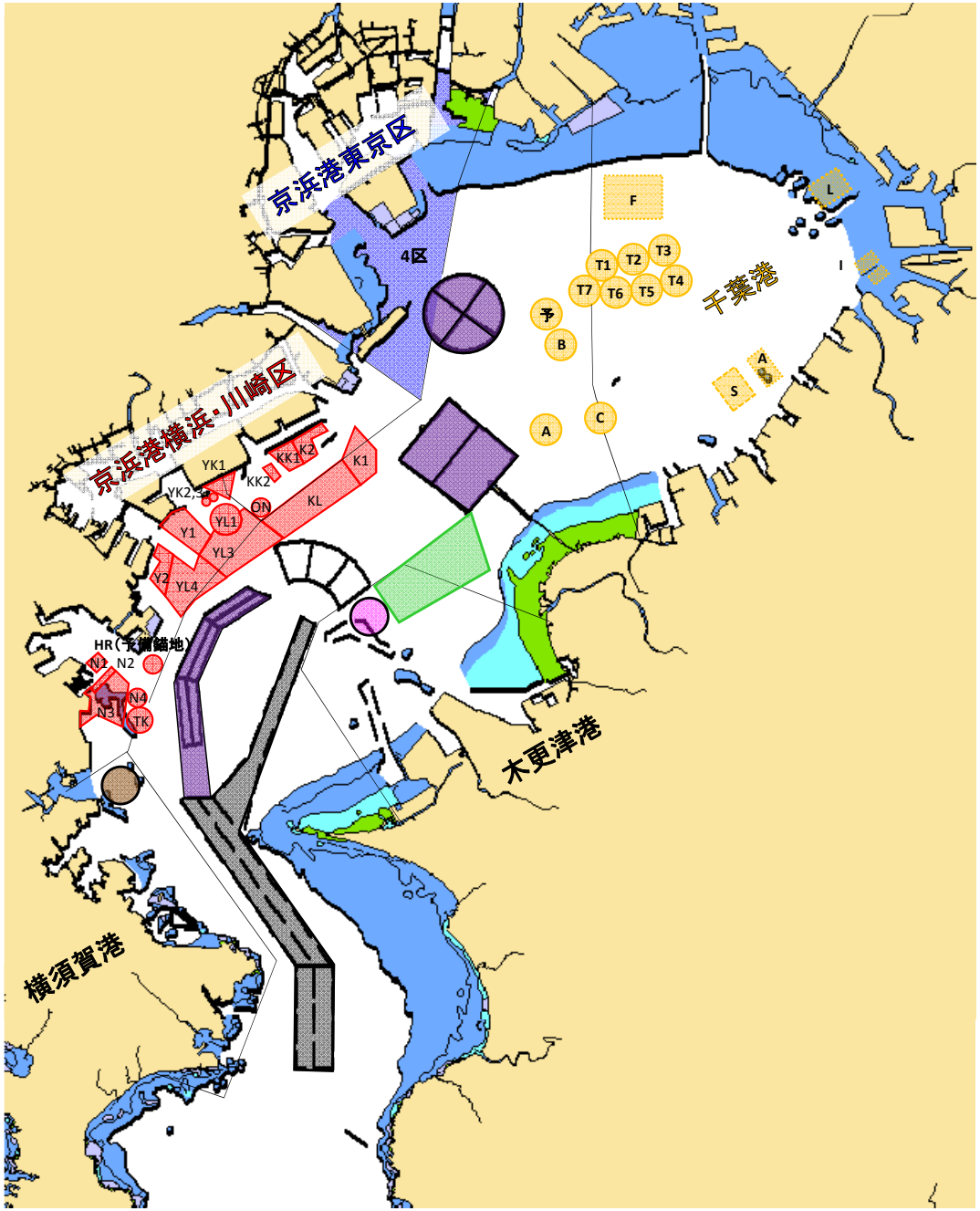
1-1　東京湾の基礎情報

1-1-1　海交法・港則法の海域



1-1　東京湾の基礎情報

1-1-3　東京湾の錨泊ルール



【港則法】 法：第5条,13条,22条,39条　施行規則：第3条、4条、19条、42条、50条

京浜港横浜・川崎区の錨泊指定

- 危険物積載船及び500トン以上の船舶の錨地指定が必要
- 枠内の範囲に定められた船種、隻数、トン数及び長さ毎に錨地指定

京浜港東京区の錨泊指定

- 危険物積載船舶及び500トン以上の船舶の錨地指定が必要
- 京浜港東京区第4区内（航路及び羽田空港周辺350mを除く）範囲に錨地指定

千葉港の錨泊指定

- 危険物積載船舶の錨地指定が必要
- 枠内の範囲に、定められた船種、隻数、トン数及び長さ毎に錨地指定

木更津港の錨泊指定

- 危険物積載船舶の錨地指定が必要
- 枠内の付近海域において危険物積載船舶を錨地指定

横須賀の錨泊指定

- 危険物積載船舶の錨地指定が必要
- 枠内の付近海域において危険物積載船舶を錨地指定

その他：港則法の航路は投びょう禁止、横浜・鶴見航路の出入口は錨泊禁止

【海上交通安全法】 法：第10条、第25条

海上交通安全法で定める航路

- 海上交通安全法で定める航路は錨泊禁止

経路指定

- 海上交通安全法に基づく経路指定海域の一部海域は錨泊自粛区域

【港湾法】 法：第2条第8項　※開発保全航路の定義に、H26.1「船舶の待機のために必要な施設」が追加

非常災害時の大型船優先避難錨地

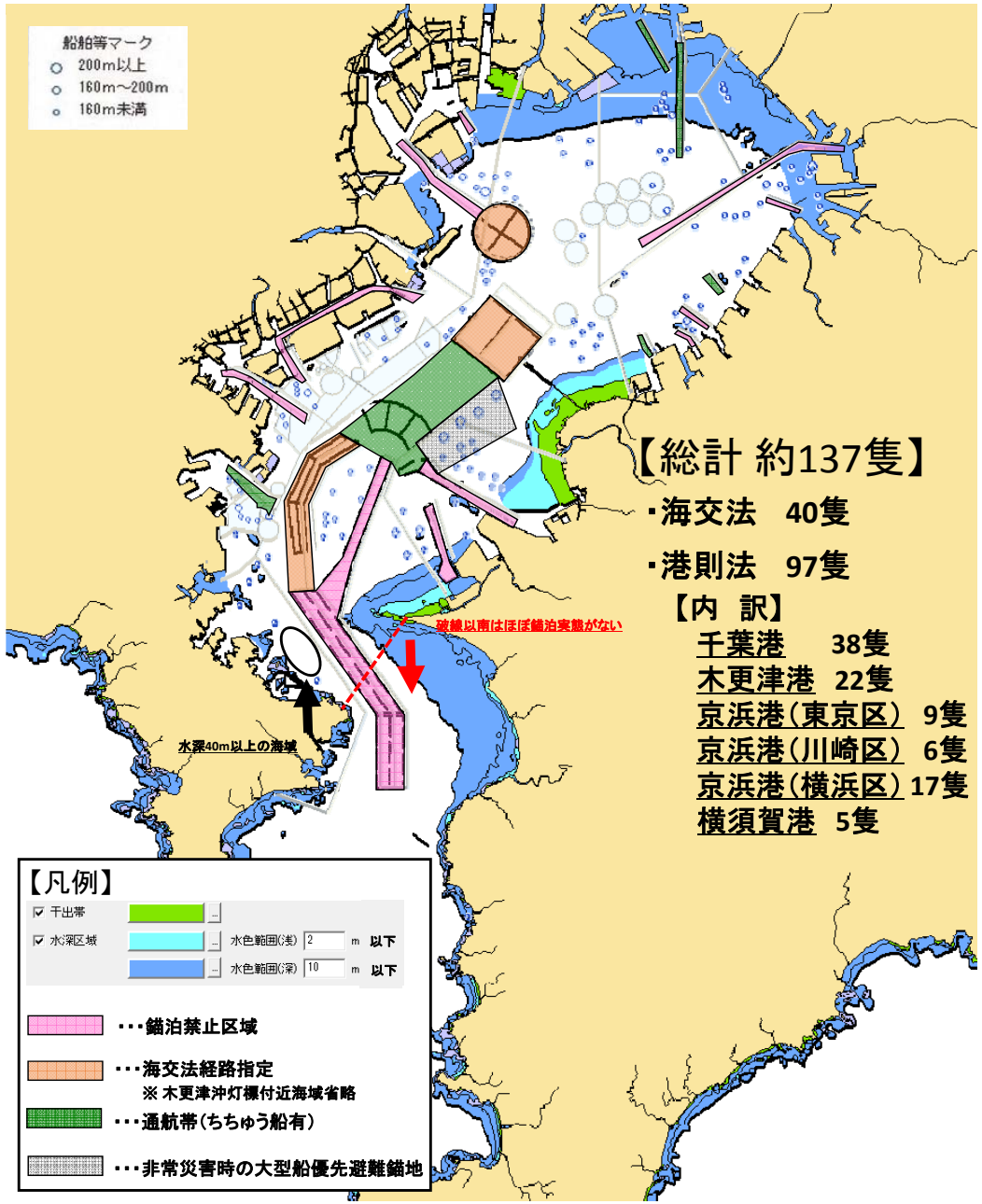
- 非常災害時、大型船（タグボートの補助や水先人の乗船を必要とする船舶）優先の避難錨地として木更津沖に設定

1-1　東京湾の基礎情報

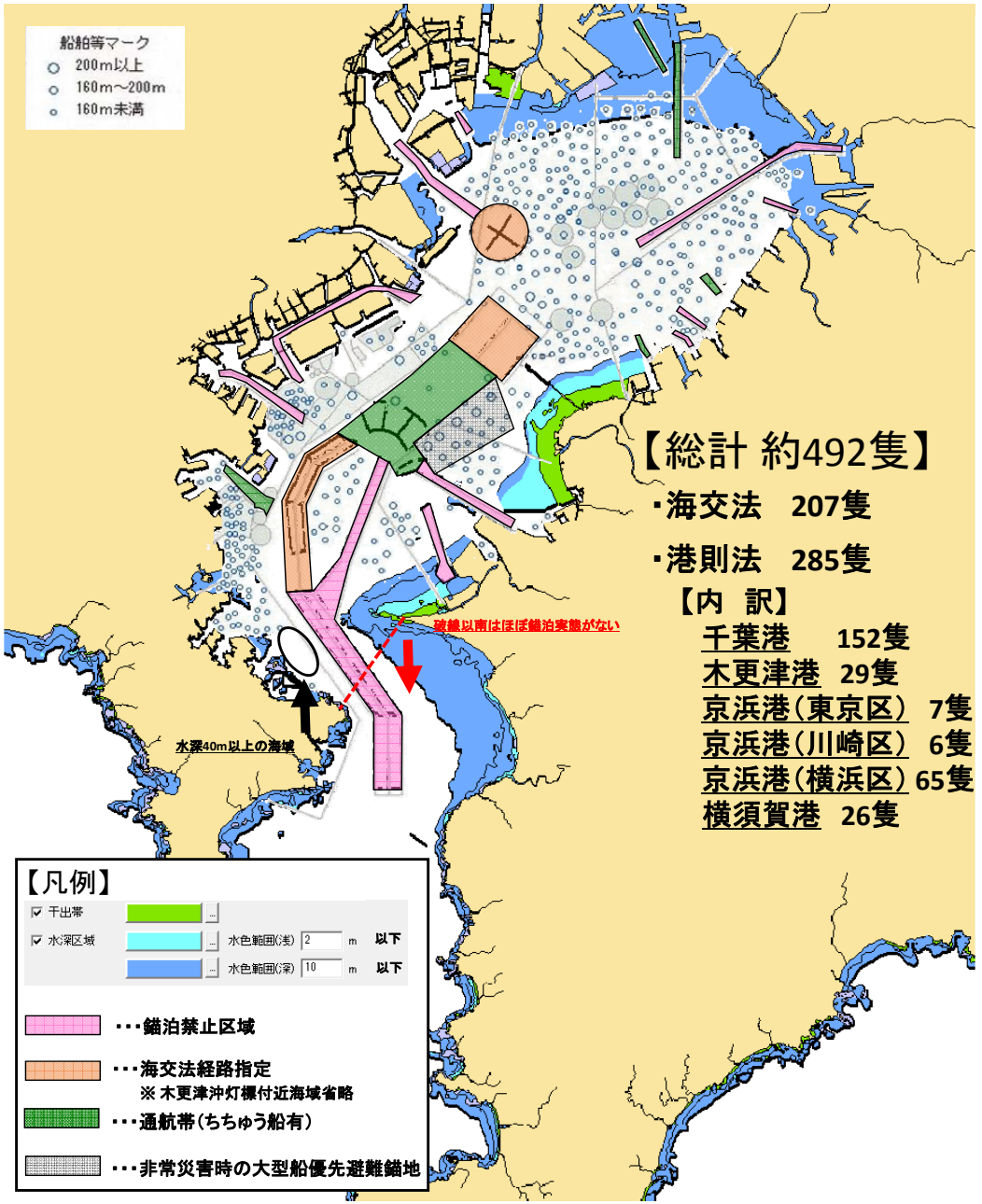
1-1-4　東京湾の錨泊状況①　＜台風24号接近前後の錨泊船比較＞

※レーダー及びAISで取得した船舶の錨泊位置（振れ回り等は未考慮）

【台風24号接近前　平成30年9月27日12:00】

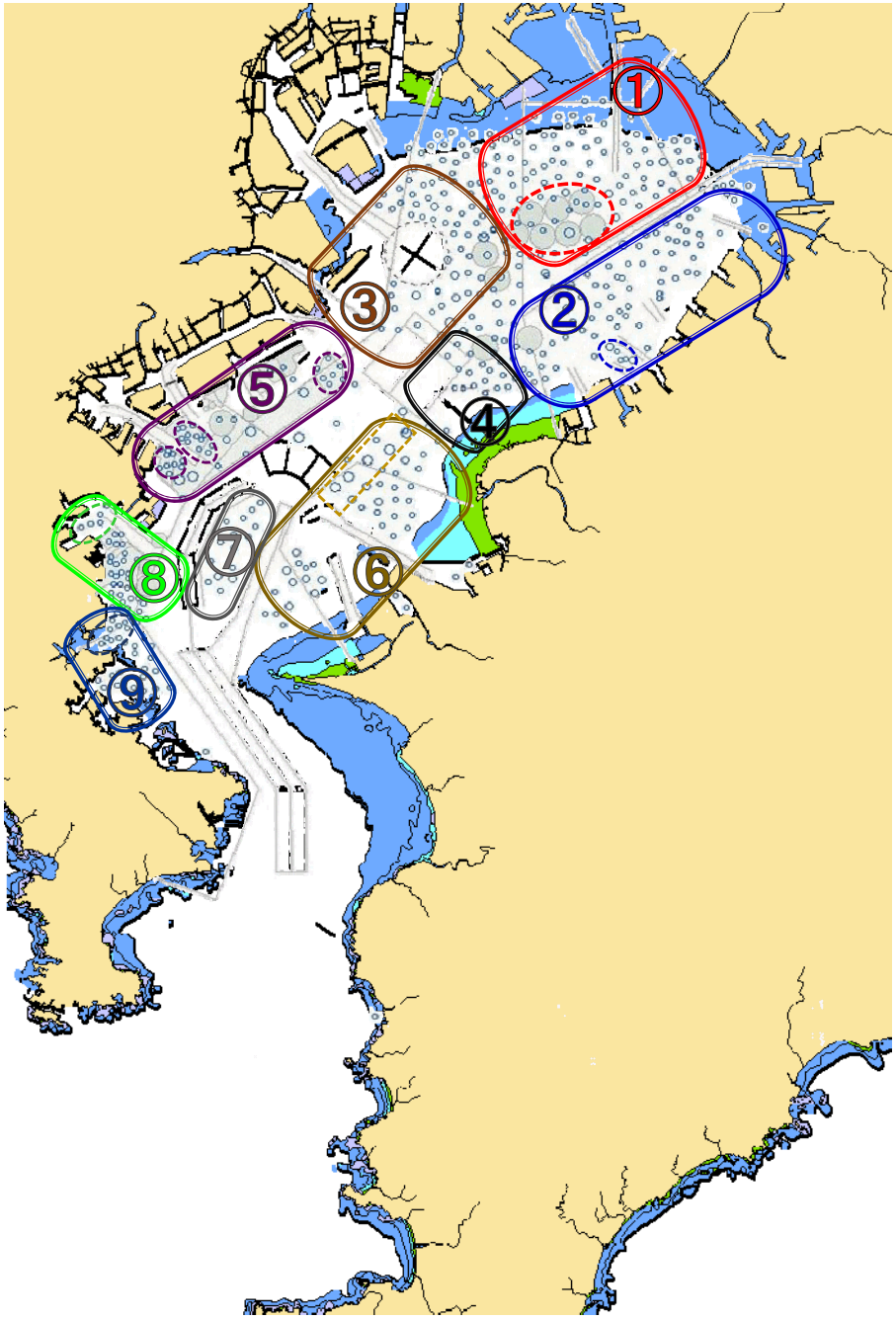


【台風24号接近後　平成30年9月30日20:00】



1-1　東京湾の基礎情報

1-1-4　東京湾の錨泊状況②　＜台風24号接近時の錨泊船の分布状況＞



① 千葉沖北部海域
- 囲み破線内は大型の危険物積載船用錨地で、10,000GT以上のタンカーが錨泊
- その他範囲には、3,000GT以下の貨物船・タンカーが錨泊

② 千葉沖南部海域
- 囲み破線内は危険物積載船用錨地で、3,000GT以下の危険物積載船が錨泊
- その他範囲には、10,000GT以下の貨物船及び3,000GT以下のタンカーが錨泊

③ 東京沖海域
- 東京西航路沖の海上交通安全法に基づく経路指定範囲内に錨泊船はない
- 経路指定円を囲うように、10,000GT以上の貨物船及び3,000GT以下の貨物船・タンカーが錨泊
- 東京国際空港の周辺に錨泊船無し

④ 東京湾アクアライン周辺海域
- 東京湾アクアライン北側は、3,000GT以下の貨物船・タンカーが錨泊

⑤ 横浜・川崎沖海域
- 囲み破線内（Y1、Y2、K1錨地）は3,000GT以下の貨物船が錨泊

⑥ 木更津沖海域
- 囲み破線内には80,000～100,000GT級の鉱石船が錨泊
- その他範囲には、10,000GT以下の貨物船が錨泊

⑦ 中ノ瀬海域
- 10,000GT以下の貨物船が錨泊

⑧ 横浜根岸沖海域
- 囲み破線内には、タグボートが漂泊
- N錨地には500GT以下の貨物船・タンカーが錨泊（ほぼ日本船が占める）

⑨ 横須賀沖海域
- 囲み破線内には、1,000GT以下の貨物船が錨泊
- その他範囲には、10,000GT以下の貨物船が錨泊

1-1-4　東京湾の錨泊状況③　＜VTS画面＞

台風24号接近時　10月1日 00:00
におけるガードサークルの設定状況

【ガードサークルの算出根拠】

・ガードサークルの半径は、風速、水深、船体長を変数とする数式により算出され、概ね*200*～*500m*となる。

※　例えば、風速*30m/s*、水深*20m*、船体長*160m*の時、ガードサークルの半径は約*440m*となる。

